



166号
2011/9/1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/>
Eメール: wanli@jcom.home.ne.jp
◆‘わんりい’事務局の住所表記が上記になりました。



ブゴディンの塔 2008年12月 撮影:大川健三(四姑娘山自然保護区管理局特別顧問)

‘わんりい’ 166号の主な目次

北京雑感(57)北京の郵便局	2
中華成語故事「東施效顰」	3
媛媛讲故事(36)怪異シリーズ⑤「幻の富貴出世」	4
松本杏花さんの俳句集・千里同風より	7
読む(79)「本当は恐ろしいグリム童話(I)(II)」	7
フィールドノートの走り書き⑩	8
四姑娘山写真だより(24)	10
四川省・花見の旅	12
福建見聞録(9)福建省の事ども(続)	14
アフリカとの出会い(55)「それでも大地は乾く」	15
スリランカ紹介(50)スリランカのお酒③	16
中国-城市(都市)めぐり(8)北京市I	17
私の四川省一人旅(48)理塘の街で⑧	20
映画「沈黙の春を生きて」を見て	22
平遙・大同の旅記録	23
わんりい' 掲示板	25

【表紙写真説明】丹巴^注の渓谷の彼方此方に大きな石積み
の塔が建てられています。用途は色々で狼煙台を兼ねた
塔だったり一族の繁栄を願って神に奉納したもの
だったり様々です。形も色々で四角や八角や13角が有
ります。

南部の渓谷の斜面に広がる集落を見下ろすブゴディ
ンの高台にも、大きな石積み塔が肩を寄せ合うように
幾つか建てられています。この塔は四角と13角で当地
の炭素年代測定によると13角は約600年前に建てら
れたようです。現在この場所では豊作や安全を祈るお祭
りが催されていて、塔は祭壇の役目を果たしています。
数十年前までは羊等の犠牲獣が捧げられ、その年の吉凶
が占われたそうです。(大川健三)

■丹巴:四川省甘孜州東部/海拔・1800メートル/ギャ
ロン・チベット族居住地

日本列島に襲いかかる猛暑を避けて、夏休みに海外旅行をされる方が一時期より多くなったようで、友人の何人かから、旅の様子を伝える、綺麗な絵葉書を頂きました。そんな絵葉書を見ながら、北京の郵便局のことを思い出しましたのでお話ししてみようと思います。

2000年頃、ハガキは4.6元、封書は5.2元だったと思います。もうかなり時間が経っていますので、細かい数字は定かではありませんが、大体こんなものでした。当時、卵は1斤(500g)0.7元、スイカは0.4元などという価格でしたから、郵便ばかり随分高いという印象を持ちました。聞くところに依ると、万国郵便連合に加盟していると、国際郵便料金は世界的に決まっています、それを現地通貨に換算したものがその国の国際郵便料金になるのだそうで、確かに、当時のレートで計算すれば、日本から出す国際郵便とあまり変わらない金額でした。しかし、生活必需品の価格があまりに安いので、郵便料金ばかりが突出していました。

北京に限らず、中国の都市を旅行されて、皆さん、郵便ポストを目にされたことがありますか？

日本だと、郵便ポストは赤ですが、中国は緑色です。この緑色のポスト、私は、街中であまり見かけません。郵便局の前に設置されているのは時々見かけますが……。

郵便局は、日本の特定郵便局ほど多くはありませんが、要所要所にはあるようです。その昔、ソ連の協力を得て建てたような、頑丈な石造りの建物の一角を占めていることが多く、道に面した窓には鉄格子が嵌めてあります。それでよく見ると、白地のプレートに緑色の文字で「中国邮政」とCの字に翼をあしらったマークとが掲げてあって、郵便局と分かります。

建物は大抵、石段を5、6段登って入口があります。ドアは開け放たれ、夏なら厚手で半透明のビニール、冬なら、我々年代の人間だと国防色と言いたいところですが、今風に言うともスグリーンでしょうか、そんな色の帆布のような厚い布に綿を入れた暖簾が下げてあって、室内温度を外気温から遮断していました。が、それは昔の話、今では入口が改造されて回転ドアやエアカーテンが設置されています。私の住まいの近くの郵便局は、改造の序でに車椅子用のスロープも増設しました。勿論、街並みが変わったところでは、建て替えられたり、新築のビルに移転したりして、路面から上がる階段が無いフラットな入口になったところが多いようです。

暖簾を押し分けて中に入ると、正面にカウンターが連なっていて、郵便為替等を扱う窓口、郵便を扱う窓口と並んで、少し低いカウンターに秤を備えた小包を扱う窓口が並んでいます。日本と違うのは、それらカウンターの反対

側、道路に背を向けるようにガラスケースが並んでいて、中には「切手・古銭ショップ」のような品物が並んでいます。普通は、古銭こそ見かけませんが(一、二度、記念硬貨のようなものが並んでいるのを見ました)、切手帳だとか、初日カバー(発売された記念切手を封筒に貼り、発売日の消印を押したもの…蒐集の対象)等が並べられています。

初めて郵便局に行った時、書いた絵葉書を窓口差し出すと、航空便で送るのかを確かめてから、4.6元かける枚数分の金額を告げられ支払うと、係員が切手を貼ってくれました。次回のために切手が欲しいと思い、切手だけ買おうとすると、向かい側のカウンターで買えといわれ、そちらで買わせられました。2、3ヶ月して、もう絵葉書でもないと、日本から持っていった花柄の私製ハガキで、裏面全体に便りを書いて出そうとすると受け付けてもらえませんでした。どうしてかと聞くと、これはハガキではないというのです。それでは封書料金5.2元を貼れば良いのかと聞くとそれもダメ、結局そのハガキを向かいのカウンターで買った封筒に入れて出しました。ある時は、日本のごく普通の封筒に中国式に宛名と差出人の名前を書いて持っていきましたが、それも受け付けては貰えず、中国封筒に入れてから切手をはりました。

そんな経験から、日本製のハガキや封筒は受け付けてくれないのだと思って、一昨年友人と中国を旅行した時、友人が日本から持ち込んだ絵葉書を出そうとしたので、「それは受け付けてもらえない」と知ったか振りをしたのですが、物は試しと窓口に行くとなんか受け付けてくれました。ちょっと恥ずかしい思いをしましたが、よく考えると、私製ハガキは日本製だからダメなのではなく、中国にはあのタイプ(裏面全体におたよりを書く)のハガキがないからなのでしょう。中国で明信片(シ シ ピン=ハガキ)と言ったら、必ず写真か絵が付いていて、おたよりはハガキ面の四分の一にしか書けません。あのスペースが4.6元と考えれば良いわけです。封筒も、日本製だからではなく、幅が狭いのでダメだったのだらうと私なりに納得しました。次回、このあたりのことをハッキリさせたいと思います。

最近、パソコンやファックスで即座に連絡が取れるようになって便利になりましたけれど、郵便もEMSなどと言う早くて確実な手段を提供するようになりました。EMSは最低でも100元以上しますが、3、4日で届くのが魅力で、中国の方々もよく利用しています。昔は、5元前後の郵便料金が高いと嘆いていた同じ方々です。この変化は、物価全般が高くなってきているせいもあるでしょうが、中国の方々の、サービスに対する価値観が変わって来たのが一番の原因と考えられます。

東施效顰 (dōng shī xiào pín)

中華成語故事

楠木マリ

日本語では、「(西施の) 顰(ひそみ)に倣う」と言い、他人の物まねをするおかしさをわらう時、また、自分の行為を謙遜して言う時にも使います。私なら、「三澤さんの顰に倣い、この原稿を書いています」というところでしょうか。日本では、どちらかと言うと、自分の行為を謙遜する時に使うことが多いように思いますが、中国では美人の西施に対して不美人の東施が、美人の真似をするおかしさを強調しているようで、舞台やテレビで演じられているのを何度か見たことがあります。

《莊子・天運》に出てくる話で、春秋戦国時代の昔、越の国の若耶溪^{ルオイエシ}という流れの西岸に施という家族が住

んでいて、その娘が大変美しく成長したので「西施」と呼んでいました。同じ若耶溪の東側にも同じく施という家がありました。その娘は美人ではありませんでしたが、便宜上「東施」と呼んでいました。

東施は、自分が醜いのを自覚しているので、美しい西施の様子を見ながら、服装・お化粧・立ち居振る舞いを見習って、何とか自分を美しく見せたいと努力していました。ある日、流れの東側に渡って西施の様子を観察していると、西施は何か心配事がある様子で、胸に手を置き、眉根を寄せて考えを廻らせているようでした。村の人々はその様子を見ながら、西施がいつもより一層美しいと感じました。東施もその様子にすっかり魅せられて、西施の様子・動作を食い入るように見つめて、しっかりと頭に叩き込みました。

流れの東側に戻るとすぐに、西施の真似をして、胸に手を置き眉根を寄せて、西施の様子を思い出しながら必死の形相で歩き始めました。それを見た村人達は、東施のただならぬ様子に恐ろしくなり、皆家に逃げ帰っていきました。

《莊子》は、「美しい人が心を悩ませて、眉根を寄せて歩くから美しいのであって、美しくないものが、悩みも無いのに顔を顰めて歩いたのではますます醜くなるだけで逆効果である。うわべだけを真似するのは、何の意味も無く唯こっけいなだけである」と言っているのです。

この西施、中国四大美女の筆頭に挙げられますが、



イラスト：叶霖 (Ye Lin)

ほっそりした体つきで、身体から香気が立ち昇ったと言われ、彼女が湯浴みしたあとの水を周りの人は香水として利用したのだそうです。

越の田舎の貧しい家に生まれましたが、美しさを見出され推挙されて越王勾踐の後宮に入りました。越が呉と戦って破れた後、彼女は、越王勾踐から呉王夫差に献上されました。これには越王勾踐の深慮遠謀があり、呉王夫差が西施の色香に溺れ、国政を疎かにして呉の国力が衰えるのを狙ったものでした。果たして、呉王夫差は西施の美しさの虜となり、呉の国内がみだれたところで越王勾踐に攻め込まれて呉は滅び、長年の呉越の戦いに決着が着いたことは皆さんご存知の通りです。

この事実を踏まえて、美しい人を「傾国」或いは「傾国の美女」と言うようになったのも先刻ご承知のことでしょう。

因みに、中国の「四大美女」と言うと、多少の入れ替えはあるようですが、一般的には、西施(春秋時代)・虞美人(戦国時代末)・王昭君(漢)・楊貴妃(唐)の4人を言うようです。時代によって美人の条件も変化していますが、4人に共通するのは、各時代情勢を背景に、千年以上を経た現代にまで語り継がれる悲しいドラマの主人公であるということです。

ここで蛇足を一つ。「東施」は「西施」に対する命名で、お話の中の「東施」は、「西施」ではない一般の人の意味で使われています。

元の至正六年(1346年)、泰州(江蘇省揚州市)に何友仁という書生がいました。彼はとても貧乏で、十分な食事もとれず、まともな服も着られず、苦しい生活を余儀なく送っていました。

そんなある日、何友仁は土地神である「城隍神」を祀った「城隍廟」へ参拝に行きました。「城隍廟」の門をくぐって中に入り広い境内を見回しました。大きな正殿の東、西に幾つかの小さな堂があって、東の堂には一つの机が置かれ、その上方に「富貴出世を司る」というような意味合いの文字が書かれた扁額が掛けてありました。何友仁は急いでその扁額の前へ出て熱心に祈りました。

「私は、この世に生を受けて四十五年になります。私は一年を通して一生懸命働いているのですが十分な衣食を得たことはありません。真冬は皮の服一枚で凌ぎ、真夏は葛糸織りの服一枚で過ごしています。「今年は暖かい冬だ」とひとが話し合う冬でさえ私は寒さにうち震えています。食事はといえば、朝夕お粥一杯をすすめるだけです。豊作の年もお腹いっぱい食べることもない日々が続いています。このような生活ですでお金を贅沢に使うなどということはとてもできないのですが、だからといって悪事を働いたことはありません。頼りになる親戚や、友達は無く、妻も子も私を軽蔑し、周りの人々も相手にしてくれません。このような辛さや苦しさを誰に話したらよいのでしょうか。

私はこのような毎日を送っておりますので、恥も見栄もかなぐり捨てあなた様の前にひざまづき私のこの先についてお伺い申し上げます。私は良いチャンスに恵まれることがあるのでしょうか、手を結べる人はどこにいますでしょうか。どうかお告げください。今の私はまるで水が涸れて死にかけている鮒のようです。どうぞ一斗ほどの水を与えて命を救ってくださいませ。私は羽を休める場所が見当たらず疲れきった鳥のようです。どうぞ一枝を地面に挿してひと時の憩いをください。この暗闇の中で道を失い迷っている私に明るい方向をお示し頂ければ、あなた様の暖かなお情けを生涯忘れる事はないでしょう。なにとぞ哀れな私にお情けを賜りくださるよう深く深くお願い申し上げます。もし私の運命がすでに前世で決められおり、今のようならありさまがこれからも続くというのでしたらその報

いがどこにあるのか教えて頂けますようお願い申し上げます」

何友仁はこのような願いことを唱えながら、机の前にひれ伏していつまでも祈り続けました。

そのうちいつしか辺りは暗くなり夜が訪れました。ふと気が付くと廟の中で不思議な光景が繰り広げられ始めました。全ての堂は灯りが点され、大勢の人ががやがやとなにやら騒ぎながら集まって来ました。廟の役人たちのようです。しかし何友仁がいる堂だけは灯りも点されず、人も来ず、静かなままでした。

だんだん夜が更けて来ました。すると突然、「道を開け！ 城隍様がお出ましになるのだぞ！」と大きな声がひときわ高く響いて、威厳ある風貌の城隍神が、大勢の従者に囲まれてしずしずとやって来ました。東、西堂の役人たちはそれを見ると、すぐさま二列に並び、恭しく城隍神を出迎えました。礼服をきっちり纏った城隍神は廟内に入ると、薄絹を貼った提灯を捧げ持つ従者たちが、両側に整然と並ぶ中を威風堂々と正殿に向かい、用意された真ん中の席にすわり、廟の役人たちの拝礼と挨拶を受けました。役人たちはその後各自の堂に戻って再び自分の仕事を始めました。

この頃になって富貴出世の神が廟にやって来ました。実は富貴出世の神は城隍神の使者として、天帝に拝謁してこの時戻ってきたのです。富貴出世の神も城隍神に挨拶をすると何友仁がいる堂に来て、自分の席に着きました。すると、役人の帽子を冠り、緑色の官服に三角模様の帯を巻いた幾人かの役人が入って来て、富貴出世の神に挨拶をし各自が為した仕事について報告を始めました。

その一人が言いました。

「某県にある家は二千石¹⁾の米を貯蔵していましたが、最近、早魃や、蝗の害など相次いで起って、米の価格は数倍にも値上がりました。隣県はお米を県外に売らないようにというお触れを出し、食べるものが無くなって野良には餓死した人の死骸もあります。そこでこの家の主人は倉のお米の放出を決めました。利益も貪らず、いつもの価格で人々に提供し、またお粥を炊いて、町の貧しい人々に与え、多数の人を助けたりもしました。昨日、県の守護神からその報告を受けましたので私はすぐ城隍神に申し上げ、城隍神よりそれを天帝に上奏して頂

きました。すでに天帝からの伝令が届いております。褒美として、その家主は三十六年間の延命を一生分の糧食を賜ることにするとのことでございます」

又一人が報告しました。

「ある村に婦人がおります。夫は遠方で仕事をしており今は家にいないのですが、その女性は姑に対して行き届いて面倒を見ています。或る時、姑は重い病気になるなかなか治りませんでした。医者に診て貰ったり、巫を呼んで祈って貰ったりしましたが効果がありませんでした。そこで、女性は自ら斎戒沐浴し、姑の病気の苦しみを自分に身代わりさせてくださいと天に祈りました。さらに自分の股の肉を削って汁にし姑に飲ませたりもしましたので願いが叶って姑の病が遂に快復したということでございます。昨日、天帝よりの公文が城隍神のところに下りました。公文には「この女性の孝心と行動は、鬼神をも感動させる力がある」と讃える言葉が書かれ、彼女に二人の男の子を授けて、この子供たちが成人した暁には、国の俸禄を与え、一族を繁栄させよう」とあり、さらにその女性に命婦の称号を授与して孝行に報いようとのことです。私はすでにその女性の名前を福籍²⁾に記録いたしました」

その役人の話が終わると続いてもう一人が話を始めました。

「某姓の役人は職位が高く、俸禄も多い。しかし、国にたいする報恩の気持ちはまるでなく、ひたすら私腹を肥やしてきました。銀錠³⁾300個ではきちんとした裁判をせず、500個を差し出せば法律を曲げることも意に介しません。城隍神はすでにこの事実を天帝に奏上し罪名を与え、懲罰するお考えですが、この人は祖先の強い陰徳に恵まれております。やむなくあと数年経たのちに処罰をすることになり、その時、必ずその一族を滅ぼす災いをも与えるとのことでございます。今朝、天帝からの命令が下り、先ずは懲罰を加える方の名簿にこの役人の名前を記入して、ただ時期を待つだけとのことでございます」

続いて、もう一人が言いました。

「某郷の某人は、良い畑何十頃⁴⁾もあるのですがそれだけでは満足できず、強欲で他人の土地を自分の物にしています。隣家の土地が某人の土地とつながっていることから隣家を欺いて自分の土地にすることを思いつきました。つまり隣家の家族数が少なく、立場も弱いので無理矢理に安いお金で買い取る契約をし結局その代金を払わないままにしたのです。隣人の主は恨みが

高じてやがて憤死してしまいました。私は城隍神からの指令を受け、某人が亡くなった時に地獄に落としました。人づての話では、某人はもう隣の家に牛として生まれ変わり、一生懸命働いて罪を埋め合わせているとのことでございます」

役人達が次々報告するのを聞き終わると、富貴出世の神は突然眉を吊り上げ、目を見開いて大きなため息を漏らしました。

「諸君は、それぞれの仕事を忠実に勤めており喜んでいる。善行を褒め、悪行を処罰し、すべて綿密に滞りなく処理していると感じるが、しかし、天運は既に決定され、人間が避けることのできない苦難の運命が待っていることがあるのだ。これまで長く続いてきた現統治は以後衰えて行き、おそらく大難の時代が訪れるであろう。諸君がこのように職務を立派に全うしても天運を変えることはできず残念この上ないことだ」

役人たちはみんな吃驚して

「おっしゃっていることの意味が分かりませんが？」と富貴出世の神に訊ねました。富貴出世の神は

「実は私は城隍神の使いで天帝のところに参りました。神々の話では数年後に内乱が起こり、黄河の南から、揚子江の北に至る地域で三十万人あまりの人々が殺されることになっているようだ。そのようなことが起れば、日頃から他の人に勝る善行を積んで、徳行が優れ、忠誠心が深く、孝行の人でないと難を免れ得ないのだ。残念ながらごく普通の庶民は保護されることはなく、塗炭の苦しみを味わうことになるだろう」

役人たちはみんな眉を顰めて、互いに顔を見合わせるばかりでしたが、やがて黙って各自の職場に戻って行きました。

さて、何友仁はこの間、机の下にじっとひれ伏したまま息をひそめて事の成り行きを見ていましたが、役人たちが全て引き上げたのを見届けると終に我慢できなくなりしました。机の下からそっと這い出て恐る恐る富貴出世の神の前に出て立ち上がりました。

何友仁は富貴出世の神に訊ねました。

「私は生まれてこの方、ずっと貧しい日々を送って来ました。その訳を教えて頂けますか？そして、この先はどうなるのでしょうか？」

富貴出世の神はしばらくじっと何友仁に見つめていたがやがて下役に帳簿を持って来させ自ら調べ始めました。しばらく経ってから、何友仁に向かって話しました。

「そなたは素晴らしい福祿を持っているのだ。今の貧しい生活は長くはない。これからは、日に日に豊かになって暗闇から出て、明るい生活が始まるだろう」

「それは本当でしょうか？その訳をもう少し詳しく教えて頂けませんか？」

何友仁はもう一度富貴出世の神に伺いました。

すると富貴出世の神は紙と朱筆を取り、紙に「遇日而康、遇月而癸、遇雲而衰、遇電而没」と十六の大きな字を書いて、それを何友仁に渡しながらいきました。

「日に会えば豊かになる。月に会えば金持ちになる。雲に会えば衰えよう、稲妻に会えばそなたは亡くなるのだ」

何友仁は有難くその紙を押し頂いて懐に入れると富貴出世の神に繰り返し礼拝をして城隍廟を後にしました。

廟の外は、夜のとばりに曙がほのぼのと現れたところでした。何友仁は、富貴出世の紙が書いた16文字を再び読もうと思って懐に押し頂いた紙を探りましたが、不思議なことにその紙はいつの間にかなくなっていました。

家に帰った何友仁は前夜のことを妻と子に話しました。将来が良くなると富貴出世の神に告げられたことを話しながら彼は自分自身もいくらか慰められたように感じました。

数日後、何友仁のところへ傅日英という町の豪族が訪ねてきて、自分の家の子弟に学問を教えて欲しいという申し出がありました。何友仁はその申し出を受け、彼は教師になりました。報酬として月に銀錠5個が手に入るようになり、その後の生活はだんだん楽になって来ました。

このようにして何年か続いた頃、高郵(江蘇省)の張士誠⁵⁾が兵を挙げて反乱を起こしました。脱脱という名の丞相が朝廷の命令を受けて兵馬を率き、反乱を平定にすることになりました。丁度その頃、何友仁は達理月沙という朝廷の将軍と知り合いになっていましたが、この達理月沙は非常な読書好きで学問を好み教養のある人物でした。何友仁は達理月沙の為に良策を献じて気に入られ、達理月沙は何友仁を脱脱丞相に推薦しました。このようなことで何友仁は軍に入るや参謀として、部下や馬車が供される身分になりました。

脱脱丞相が勝利を収めて凱旋し都に帰ると何友仁は朝廷の役人として推挙され、翰林院⁶⁾で就任したのを初めとして、その後さまざま省、部の重役を歴任して名を上げて行きました。

その後、文林郎⁷⁾の御史⁸⁾に就任しましたが、同僚に雲石不花という人物がおり、何故か二人はそりが合わず、何友仁は上司に讒言されて左遷され、雷州(広東省)の録事⁹⁾に下りました。

何友仁はその昔富貴出世の神が彼に語った話を思い出して、「日、月、雲、電」の四文字の中、三文字との出会いによって自分の運が変わってきたことに思い当たり、非常に不安に思い、絶対に不正は行わないと自らを諫めました。

そして又二年経ったある日、或る用件について上部へ書類を提出する必要が生まれました。下役が準備した公文書に何友仁は「雷州録事何友仁」と署名をしようと筆を取り書き始め、丁度「雷」のところを書いていた時に、紙が風に吹き飛ばされそうになり「雷」の下に尾を曳き出してしまい、「電」になってしまいました。何友仁は機嫌が悪くなり、下役に公文書を作り直させてサインをしました。

ところがその夜になって、何友仁は気分がすぐれなくなり、自分はふたたび起き上がることはないと感じました。妻や息子や娘たちを自分の枕元に呼んで家のこと等を託して別れを告げて亡くなってしまいました。家族は富貴出世の神が預言したことはこれだったかと知りました。

その後の至正十一年(1351年)、張士誠¹⁰⁾が淮東(江蘇省淮安)で再び反乱を起こし、明の開祖となる朱元璋が淮西で国を興そうと兵を挙げ、内乱が絶え間なく続きました。その為に淮河沿岸部はこれらの戦乱により亡くなった民は三十万を超えました。正に富貴出世の神が城隍廟の役人たちに話した通りになったのです。

(終り)

● 注釈

- 1) 二千石：米穀などを量る単位。1石＝10斗、約180リットル
- 2) 福籍：地獄の帳簿。善行を行った人の名を記録
- 3) 銀錠：元で流通していた銀塊の通貨。馬蹄形をしたものなどいろいろある。
- 4) 何十頃：土地の面積。1頃約6ヘクタール
- 5) 張士誠：元末の農民造反のリーダー
- 6) 翰林院：昔皇帝の詔書、公文、史書などを起草、編纂する部門
- 7) 文林郎：官級の一つ
- 8) 御史：朝廷の監察員に当たる
- 9) 録事：官名。官僚たちの善悪行為の記録、書類の処理することを行う

円卓に満つる風流月今宵

táng dà yuánzhuō
堂大圓卓liú mǎnzhuō lùn shīgē
流满座论诗歌jīnxiāo shí wǔyuè
今宵十五月

新豆腐好み変わりぬ夫の箸

xīn dòufu qīngdàn
新豆腐清淡fū jūn xǐ hào qiǎo rán biàn
夫君喜好悄然变kuàizi yī rú qián
筷子一如前

季语 今宵月，秋。指农历八月十五的月亮。

赏析 这是作者由牡丹江来北京同中华诗词学会交流时创作的俳句。农历八月十五是中国传统的团圆佳节，松本女士随日本葛饰诗社的同仁与中国的野草诗社围在圆桌旁把酒赏月，风流万千。作者巧妙地运用了桌圆人圆（齐）月圆等词汇，将交流的圆满烘托出来，可见作者驾驭文字的功力，令人佩服！

季语 新豆腐，秋。指用秋刚收采的新大豆做的豆腐，故为秋天的机遇。

赏析 夫妇相濡以沫多年，双方喜好互知。但，妻子对夫君的观察更为细腻。以前夫君口味重，随着年纪的增长，如今爱吃清淡的食物了。这本是日常生活中的区区小事，可作者却把它写进诗中，可见他们夫妇间的感情多么深厚。真是平淡中藏神奇，细微中露精神！如果对生活和爱人麻木不仁，是写不出这类诗作的。

アジアを読む(79)

本当は恐ろしいグリム童話
本当は恐ろしいグリム童話Ⅱ桐生 操著
KKベストセラーズ

日本でおなじみのグリム童話は、グリムの生前最後の版となった第七版に基づいているそうだ。グリム童話の初版や草稿など参考にし、桐生氏がアレンジを加えた本書は、大人の事情を隠さず書いている。決してハッピーエンドでは終わらせてくれない。

王子の愛によって眠りから目覚めた「眠り姫」は、めでたく王子と結ばれるが、眠っていた100年間のジェネレーションギャップを埋めるのに苦勞する。人魚姫は、人間となって王子の寵愛を受けるが、複雑な人間関係には馴染めず、魅力であるはずの純粹無垢さが疎まれる。ヘンデルとグレーテルに出てくる魔女は、実は貴族の家臣で、少年を肥やして主人に献上していた。シンデレラにドレスやガラスの靴を与えていたのは、魔法使いではなく、12時の鐘が鳴る前に帰らなくてはならない意味は…。また、白雪姫のガラスの棺を譲り受けた王子様はちょっと変わった性癖の持ち主だった…とか、大人の事情で綴りなおした物語はⅠとⅡをあわせて13



話になる。

この大人の童話や、映画や芝居などでアレンジされつづける童話は、それだけの懐の深さがあるこそ。子どもの頃、アニメで観ていた「日本昔ばなし」も、結構なパワーを持っていて、未だに思い出す物語もある。子どもの頃に聞いた物語は、どこかで生きていて、大人の事情を分かって、初めて納得することもあるのかもしれない。

今回、大人の童話を読んでみて、しみじみ思うことは、完璧な人間なんていないということだ。主人公の少年少女たちは、我慢することが苦手だし、誘惑に弱いし、「やってはいけない」といわれたことには必ず手を出す。彼らを取り巻く大人も、いい人ばかりではなく、いじめる人あれば、騙す人あり、命さえ奪おうとする人もいる。でも、そこに物語が生まれ、苦勞するからこそ、お姫様は王子様に出会えるのかも。塔やお城の外は危険だけど、一步踏み出さないと、人生は始まらないということか。

(真中智子)

東北の被災地も新盆を迎え、仮設住宅の門前では、新たに移り住んだ場所を亡くなったご家族に知らせるために迎え火を焚く光景が多くみられたといいます。宮城県南三陸町では、お盆の期間に、当地の伝承切り紙「きりこ」が広場に飾られました。風にハタハタとはためく全国から集まった数百枚のこの白い「きりこ」が、人々の鎮魂の思いを三陸の海へと届けたそうです。

今月は、今夏に中国の黄土高原・延川から届いた剪纸を一部、ご紹介します。

この地域の剪纸は元来、女性たちが家族の健康や家の幸せを思って正月飾りや結婚式の装飾として作るものですが、80年代以降は剪り手の女性たちが神話や民謡等の物語、さらに自身の人生の一場面の回想など、多彩な主題を表現する手段にもなっています。自分たちの村に初めて電気が通った日の宴、村から街の病院へ連れて行く手段がなく、病にかかったわが子に母である自分が点滴を施して治した!という誇らしいエピソード、はたまた1997年の香港の中国への主権移譲といったTVで見たニュースまで、あらゆる出来事が鉄に思いを託して剪り表されます。

ご紹介する剪纸は、延川の民間文化研究者でもある馮奮氏の呼びかけで、日本の震災の被災地のニュースを見た女性たちが剪った作品です。延川がある陝北地域は地震はほぼなく、四川の大地震の際は初めての大地の揺れを経験し、みな驚いてヤオトンから外へ飛び出したとか。自国の大震災がもたらした悲劇の記憶はこの地域の人々

にも深く刻まれ、3.11の日本の被災地を映し出した報道を見て動揺し、心を痛めたといいます。「家族を想う気持はみな一緒」という日本の被災者の方々に向けた思い、「みんなで助け合おう」という温かいメッセージが、彼女たちが想像力を働かせて剪ってくれた様々なかたちから伝わってくるようです。

- 企画者：馮奮(以下、敬称略)
- 剪纸を送って下さった作者：劉曉娟、程東梅、劉真榮、賀彩蓮、賀彩虹、王金娥、王彩萍、高秀芳

◆ 丹羽朋子(にわたもこ) —————
 中国の民間芸術研究の傍ら、日中の出版界をつなぐプロジェクト「一芯社図書工作室」を運営。著作に『ものの人類学』(共著・京大出版会)、編訳書に『魯迅の言葉』(平凡社/中国・三聯書店)など。本エッセーのバックナンバーは一芯社のサイト(<http://yixinshe-books.jimdo.com/>)に掲載中。





6月1日の国際児童節^注には女王谷（現在ギャロンと呼ばれる地域のチベット語の原名“rGyalmorong”の意識）各地の小学校で学園祭が盛大に開かれます。特に四姑娘山の西側下流に在り古い文化を良く残す丹巴県の学園祭では芸達者な子供たちの舞踊が見もので親や親戚等が会場に押し掛けます。

学園祭の午前の部では県政府トップの祝辞に続いて子供達の行進や優秀者の表彰が行われ、午後の部では子供たちの舞踊が披露されます。豊かな自然の中で伝統を大切に育てられた丹巴の子供達は小さい時から歌や踊りに馴染んでいて、学園祭のような時には気後れせず積極的に参加します。そんな子供たちを写真で幾つかご紹介します。



写真1 クラス毎に国旗を掲げて集合した子供達。写真には写っていないが周りには親や親戚たちでぎっしり。



標高2500m位の山里で見かけた花。針のような沢山の花糸？が風にサラサラ揺れる様が幻想的でした。



写真2 開会式を先導する子供たちの楽団。よく訓練されていて調子外れの音は出ません。



写真3 当地風オペラで西遊記を演じる子供達。台詞が長過ぎて間が空くのも愛嬌で盛んに声援を浴びていた。



写真4 元気いっぱい楽しさいっぱいで踊る子供達。将来この中から名のあるダンサーが出るかも。



写真5 母親やお姉さん達と同じように着飾って踊る女の子。小学生とは思えない綺麗な踊りを見せた。



写真6 幼なさが残るもののいっばしの歌謡と踊りを見せる子供達。親たちが回りでカメラやビデオを撮っています。何処の国でも親の思いは同じ。

国際児童節(六一児童節)：社会主義国家が定めた「子供の日」
 1949年、モスクワで国際民主婦人同盟の会議が開催され、全世界の児童の権利を守ることを目的にした「国際子どもの日」を6月1日とすることが決議された。その後、国際連合において1954年の総会で、全ての加盟国に対して「子どもの日」を制定し、世界の子どもたちの福祉を増進させる活動の日に充てるよう勧告した。社会主義国は、すでに採用していた6月1日の「国際子どもの日」をそのまま、各国の「子どもの日」とすることになった。
 (「サーチナ」ネット記事より)



写真7 未来の丹巴美人を思わせる女の子の伝統舞踊とそれをバックアップする男の子達の踊り。

●大川さんのホームページはこちら
<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>
<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvalley.htm>

四川省・花見の旅 (2011年6月28日～7月6日)

「踏まなければ歩けないお花畑に会いたい」と去年の蘭に引き続き、大川健三氏に案内をお願いする。花の最盛期を狙った今回の目的地は丹巴の東、丹東の奥、4200mの峠を越えた莫スカ(モスカ)である。

その峠付近には期待通りの花畑が広がっていた。ブルーポピー、赤いケシ、黄色いケシや昨年もたくさん見たサクラソウの仲間にも再会した。また高山岩礫地でしか見られないクッション植物に出会えたのは望外の幸せだった。これだから、四川花見行きは止められないのだ。

(関根茂子)



4200m峠下お花畑にて(7/2)スケッチ 関根茂子

初めての中国旅行 —驚きと感動の日々—

浅沼勝子

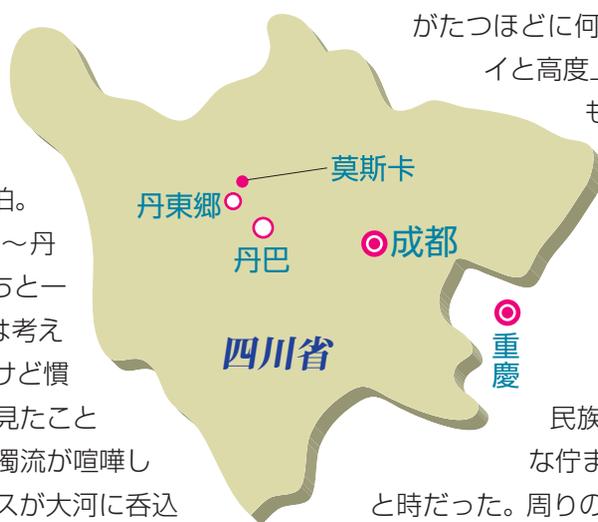
●6月28日 今年6月中旬から就航のANA成田15時30分発成都直通便で5時間弱で中国の土を踏みました。飛行場から車で1時間程のホテルに宿泊。

6月29日 乗合バスで成都～丹巴まで約10時間、地元の人たちと一緒に。車内は賑やかな事、日本では考えられないパワー。不思議な事だけども慣れてしまった。景色も私が今迄見たことのない雄大な大河。梅雨時のため濁流が喧嘩しているみたいな物凄い流れ。バスが大河に呑まれそうな縁を只ひた走る。

●6月30日 4WD車3台に分乗し丹巴～丹東へ約6時間。道中家畜が道端に寝そべり クラクションを鳴らしては通過の繰り返し。道すがらだんだんと花が咲き誇って来る。丹東集落に着き、高度調整の為集落の散策、桜草群落に大感激。石積の民家、色鮮やかな壁、屋根の飾り物、目新しい風景ばかり。

●7月1日 莫スカ(モスカ)集落へ向かう。

生まれて初めての乗馬。体中に力が入り落ちないように鞍に掴まり、景色どころでは無い。私の馬子(女性)はとても元気一杯でトップを走るくので仲間の状態は分からない。言葉も通じないしオロオロ。でもゼスチャーで時



がたつほどに何とかなってきた。岩山をグイグイと高度上げて行く。念願のブルーポピーも沢山あり大満足。所々のお花畑で下馬した。馬に馴れないせいか足腰が立たない。特に内腿、膝に激痛。花に景色に癒され、時間の経つのは早い。民家へ泊る。
●7月2日 集落の子供達の民族舞踊を見学、珍しい寺院、素朴な佇まい、心の故郷へ引きこまれたひと時だった。周りの草原はまるでお花畑のように見える。ヤクが多く大木が見当たらない。



4200m峠手前の湖で憩う(吉井勉撮影)

☀7月3日 モスカ集落より丹東への帰りは山を挟み周遊する。往路の林道ではなく緩く浅い谷沿いの地元チベット族のみ知る間道を馬で越えるのだ。これが、また素晴らしい景色だった。

峠の岩礫地では、はじめてクッション植物を見た。岩を覆うブルーの小花は丸いクッションの模様だ。段々と馬にも馴れ周囲を見る余裕が出来た。マタマタ素敵なお花畑に巡り合えた。

途中遊牧民のテントに立ち寄る。意外と中は温かい。ヤク乳でチーズ等作っていた。ゆっくり見学。

☀7月4日 丹東から車で丹巴へ、4日ぶりのシャワーでさっぱり。後の2日間で帰国するだけとなる。初めての乗馬、岩山の上下り、川渡り、終ってみれば何とも大きな中国にハマりこんだ気分になっていた自分でした。



遊牧民テントの中でのチーズづくり (笠松豊子撮影)



クッション植物 (笠松豊子撮影)



モスカ歓迎の踊り (笠松豊子撮影)



青いポピー (吉井勉撮影)



赤いポピー (吉井勉撮影)

福州から戻って1年あまりになりました。あの夏の暑さと冬の寒さを思うと妙に懐かしさを覚えます。近年の東京の異常な暑さよりもさらに灼熱の暑さとも言える福州の夏は、確かに耐えがたく、6月にはうっかりしていると衣服や家具類がかびに覆われるのには驚きました。

宿舍の寝室にはエアコンがあります。冷房専用で、しかも、ものすごい音と漏水(これは部屋の外)で、却って眠れませんでした。居間の方は天井に大きなファン(?)があるだけで、ただ部屋の暑苦しい空気をかき回しているといった風です。

5月を迎えると、あと1ヶ月少々で授業が終わる時期になり、妙にどこかに出かけたくなりました。そこで前にも行ったことのある泉州へ出かけることにしました。金曜日の午後出発し、月曜日に戻る3泊4日の旅です。そこで5月後半のある日出掛けてみました。これで最後の旅行になるかと思うと、何となく感無量となってしまいました。

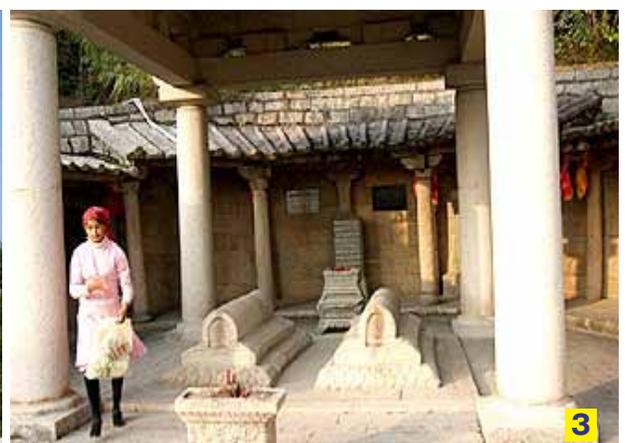
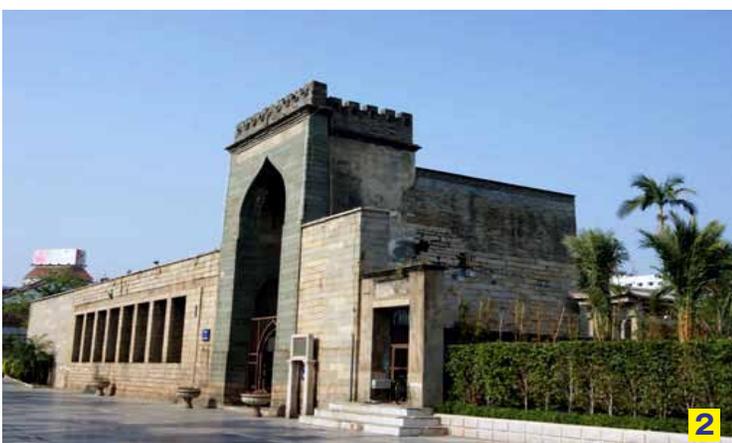
泉州は、福州からバスで南へ3時間くらいの長い歴史都市です。かつて「海のシルクロード」の出発港



(或いは終着港) だったところで、今でもその頃の面影が随所に残っています。イスラム教のモスクや遺蹟、墓地、或いは女性のスカーフのようなかぶり物(これは私だけの考えですが)など明らかに東方イスラム文化の影響かと思えます。

泉州バスセンターに到着後、タクシーですぐホテルに向かいました。私がネットで予約したホテルは泉州飯店という五つ星ホテルで、泉州での最高級のホテルですが、あまり高くはありませんでした。荷物を置いてすぐ街に出てみました。

先ず「開元寺」へ向かいました。次いで、「海外交通史博物館」と「華僑歴史博物館」を訪れました。開元寺は泉州で最も古い仏教寺院で、インドの影響が随所に見られます。例えば、柱に刻まれたヒンズー教の神々(写真1)や境内にある菩提樹等はインド文化の渡来を感じます。海外交通史博物館は泉州が海外に開かれた港であり、ヨーロッパ、中東への玄関口で、これらの国からもたらされた数多くの文物を通して「海のシルクロード」の港であったことが分かります。福建省と言え、19世紀初頭から海外へ移り住んだ華僑の故郷であり、アメリカ、シンガポール、アフリカ、日本へ出かけた人々が輩出したところですが、その人々の歴史を知ることが出来るのがこの華僑歴史博物館です。



泉州には大きなモスクがあります。「清浄寺」(写真2)という名前のモスクです。今でもモスレムの中国人や中東系の人々が礼拝に訪れています。境内にはイスラム教徒の墓地(写真3)がありますが、中国風の礼拝所や墓地もあり興味深い所です。モスクは北京や上海をはじめ中国各地にあります。この清浄寺は中国で最も古い回教寺院です。



ようなかぶり物です(写真4)。

中国ではこの地方だけの習慣のようですが、イスラムの国々からもたらされたものと言えるでしょう。最近では若い女性は身につけていませんが、年配の女性の間ではよく見かけます。

泉州は独特の文化や習慣が数多く残されていて、他の省とは比べものにならないくらい魅力に富んだところ。また

泉州で最も興味をそそるのは、女性のスカーフの 近いうちに紹介しましょう。

アフリカとの出会い (55)

それでも大地は乾く

アフリカンコネクション 竹田悦子

1984年におこったエチオピアやソマリアの飢餓は、その飢餓を救うための募金を目的に、アメリカのアーティスト達が歌った「We are the world」と共に、私の記憶の中に刻み込まれている。飢餓地帯は「アフリカの角」と呼ばれていて、ソマリア、エチオピア、ジブチ、ケニア北東部を含む地域である。

ケニアは、アフリカで唯一「難民を受け入れている国」である。スーダンとの国境付近に位置するカクマ難民キャンプ、ソマリアとの国境に位置するダダーブ難民キャンプがある。「アフリカの角」地域が、国際社会から「飢饉」と認定された時から、ケニアはソマリアからの難民を受け入れ続けている。現在、キャンプには9万とも言われるソマリア人が押し寄せ、ケニアはイフォというところにキャンプを増設している。ここに住む人たちは将来的には本国に帰還するか、難民となって外国へ亡命したり、ケニア国内に残ったりする。1991年以来ソマリアは無政府国家であり、歴史的にも複雑な過程をへて今に至っている。実は、ソマリアの政府関係者や要人達は現在もケニアに住んでいるのだ。

ケニアには、上記以外にもソマリアからの難民が定住している難民キャンプが多くある。その中で一番大きいのが、イシリーと呼ばれる首都ナイロビにある町だ。私がその町に友人を訪ねたことがあった。その地域にある水道局で働く友人は、「ここで買えない物はない」と言っていた。なるほど友人が言う通り、少し歩けば「銃」・「ドラッグ」・「酒」を売る店、違法なレートの銀行や通信会社などがある。ソマリア人が、ソマリア人向けに展開するビジネスは、多岐にわたっていた。

友人は、この町の目抜き通りにあるエチオピア料理店に連れて行ってくれた。エチオピア料理は、インジュラ

というパンが有名で、そこに野菜を添えて、手で食べる。店も、食事も、人も、そこがケニアではないことを感じさせる。流れ来るアラブ系の音楽を聴きながら、レストランの上からこの難民キャンプ町並みを眺めた。

現在、難民としてケニアに入国しているソマリア人の数は、合法非合法を含めると50万人以上はいるらしい。彼らの中には、ビジネスで成功し、ケニアの不動産を買いあさり、不動産バブルを加速させている動きもある。

2011年7月20日に国連が飢饉宣言を下す事態に至った今回の飢饉は降雨量が少なかったことに起因している。東アフリカに四季はなく、一年は雨季と乾季という雨が降る季節と降らない季節に分けられるのだが、昨年(2010年)10月から12月まで雨季の間の雨量はお情け程度にも降らず、2011年3月から5月の雨季も雨が殆ど降らなかった。その降雨量は、1950年以降で最低量だった。「早魃」は、ソマリア紛争から始まる無政府状態やソマリアの国内諸問題によって助長され大量のソマリア難民を出す結果になった。

ケニアの西北部も、去年から今年にかけて雨が少なかった。連日のニュースでも、家畜が死んだり食料不足に陥ったりしていると報道していた。しかし、ケニアには別の地域に灌漑システムがあって早魃をどうにかまぬがれ、又民間企業が製造する食料品が流通する道路もあり、手段もあり、人々の手に渡る努力もされている。

また、「Kenyans for Kenya」(ケニアのためのケニア人)という携帯電話の送金システムを利用したケニア人支援の募金活動も行われた。25万人もの参加者が参加した画期的な取り組みであった。

ケニアの隣国ソマリアが抱える問題の影響は、そのままケニアの国内問題として、大きくのしかかっている。

友人の一人娘の成女式パーティーに招かれた事がありました。日本では御赤飯で祝う儀式の事です。

友人は、奥様とお嬢さんをキャンディからコロomboよりの学園都市ペラデニヤの郊外にある実家に残し、平日はコロomboの親戚宅の一室で一人住まい、週末だけ実家に帰る生活を毎週繰り返しています。さて、この手のパーティーは事前から予定はできません。ある日突然にやって来ます。この時も、友人からの突然の招待でした。後で聞いた話では、奥様から連絡を受けると直ぐに会社には適当な理由をつけてペラデニヤに戻り、招待者リストを作成し、旦那と奥様の役割分担を決めたそうです。決めたと言っても、そこはスリランカの事、そうは上手くいかなかった様です。その話はさておいて、パーティー当日に話を進めましょう。

招待を受けた友人達と車に分乗し、コロomboを土曜日早朝に出発して昼前にはペラデニヤ郊外に到着しました。パーティー会場は友人宅の1階全部と広い庭全体です。予定時間より前ですが相当数の人が集まっています。面白いのは、女性はサリーで着飾った人が多いのに対して、男性の殆どが普段着にサンダル履きな事です。

聞けば、この人達は招待客ではなくてパーティーの準備のために集まって来たヴィレヅジの人達です。女性達は普段着姿の奥様の陣頭指揮のもとでサリーを着たままで食事の準備や部屋の飾りつけに忙しく動き回っています。

男性達は会場の設営が担当なのですが、スリランカらしく2～3人で机を運んではタバコを吸ったりお喋りで一休み。暫らくすると椅子を運んでは一休み、皆でテントを張ったら一休み、の繰り返しでいっこうに会場の設営は進みません。奥様は頭に来たのでしょうか、旦那にきつい口調で文句を言っているようです。その後も旦那をはじめとする男達は焦る事も無く同じペースで仕事を進めています。

それでもパーティーの開始時間前には設営も終わり、いよいよパーティーがスタートです。いつの間にか旦那もスーツに着替え、奥様もサリーに着替えています。本日の主役のお嬢さんはフリルが沢山付いたドレスを着て奥の部屋に鎮座して、友達とプレゼントとご祝儀に囲まれてニコニコしています。

旦那の挨拶が始まると、そこかしこで挨拶も聞かずに食事やお酒に手を出している輩がいます。実は僕達も開始前からお酒を飲み始めていて、旦那の挨拶の言葉は誰

も聞いていませんでした。食事は主に男達が庭で、女性達は室内で食べるのが決まりのようで、怖い奥様方が室内にいたので男達は嬉しそうにお酒ばかり飲んでいきます。さて、旦那がパーティーの為に今回集めたお酒はウィスキー、アラック、ビールで数は数え切れないほど大量で、台所の外にケースのままに積まれていました。

通常スリランカの人達はウィスキーやアラックはコーラやスプライト、ソーダ等で割って飲むので口当たりが良くグビグビ飲めます。まして南国スリランカで日中の暑い時間帯の屋外ですから、より一層飲むピッチが速くなります。

パーティーの途中から、僕は旦那のいるメインテーブルでしかも旦那の隣りに座らされました。これからが大変です。お客様がとっかえひっかえやってきては、旦那にお祝いの言葉と共にお酒を注いでいきます。困った事に隣りに座っている僕にもお酒を注ぎ、自分のグラスにもお酒を注いで3人で一緒に飲み干そうと迫ってきます。

僕もお酒は好きなのですが、一気飲みの連続には参りました。旦那は、この地区出身の議員や村長などの有力者が来る度に玄関まで迎えに行ったり、他のテーブルの様子を見に行ったり、食事や飲み物が置かれているテーブルの残量をチェックしたりと席を外す事がだんだん多くなってきました。日本人が来ているという話が伝わったようで、準主人公の旦那がいないのに、わざわざアラックやらライオンビールを持って来て、スリランカの酒を飲んでみると勧める人が続出するようになりました。

いったい合計でどれほどの量のアラックやビールを飲んだのでしょうか。恐らくは本単位で数えるような量だったのでしょうか。僕には記憶がないのですが友達と言う事には、僕は突然倒れて動かなくなったそうです。隣家の客室のベッドまで皆で担いで行き、寝かせてくれました。翌日の朝起きてみると、当然のごとく酷い二日酔いです。水を飲みたくて何とか台所を捜して中に入ってみると家人が驚いた顔で、シンハラ語で何か話し掛けてきます。友人の家だとばかり思っていたのに、見知らぬ婦人がいて僕もビックリです。何とか水を飲みたい事を伝え、お礼を言っているうちに話しが合わなくなってきました。僕は日曜日の朝だと思っていたのに、その日は月曜日でした。一日半寝っぱなしだったのです。無意識にトイレには行っていたのですが全く記憶がありません。お酒の飲み過ぎは怖いですね。 (続く)

使用済み古切手と書き損じの葉書で支援を!

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、使用済み古切手と書き損じの葉書を集めています。古切手は周りを1cmほど残して切り取り、おついで折に「わんりい」の事務局にお届けくださるか、田井にお渡し下さい。

9月10日(土)11日(日)に渋谷の代々木公園でスリランカフェスティバルが開催されます。多くのスリランカ物販店・レストランが出店するだけでなくステージではスリランカからやってくる舞踊団の踊りも見ることが出来ます。 (詳細:最終ページの掲示板)

都市めぐりを書きはじめた頃から北京市と上海市は書こうか書くまいか逡巡していた。この両都市は書くべきものがあまりに多いのでまとまりがつかなくなるのではと心配していたからである。



私は大連に赴任していた2年間で北京市を4回ほど訪れた。2回は仕事、2回はプライベートな遊覧である。

第1回目は、大連着任の5日後に、北京でグループ企業の懇親ゴルフコンペ参加要請があった時である。

その時まで北京には1度も行ったことがなかったので勇躍参加した。ゴルフクラブ(本物のゼクシオ)は日本に置いて赴任したので部下に聞いて2000円で假の(にせもの)のゼクシオのフルセットを購入した。北京空港は予想通り大きかったが、あまり強い印象は残らず、到着するとすぐバスでゴルフ場へ移動した。場所は飛行場から比較的近い順義という町の郊外にある立派なゴルフ場であった。

中国国内でゴルフをプレーするのはその時が初めてだったが印象に残ったのは、キャディーの私たちへの対応であった。プレーが終了後、キャディーが一人一人にキャディーへの勤務評定をつけるカードを手渡した。記入後、キャディーマスター室のそばの日本風といえば優・良・可の三つのポストに入れるのだ。その評価により給与が大きく変動するしくみのようだ。キャディーは殆どが若くて元気がよく、またグリーンの芝目など正確に教えてくれて、よく教育されているように思った。全体的には想像していたよりいい印象を受けた。余談だが、2千元のクラブは本物とはやはり違うが、プレーには問題はない品質であった。2年後帰国したときは、大連の会社に寄付をした。

翌日は、早朝また貸切バスで出発し、昨日とは違うゴルフ場へ向かった。1泊2日の日程なので翌日は観光かなと期待していたが、殆どの人が北京を充分経験しているらしく、観光をするという話は出なかった。新参はただついて行くだけである。この日はゴルフが終ると約20名の参加者は中国各地に散った。大連から参加した数名もすぐ機上の人となった。第一回目は、あの北京に来たんだ、という実感は全くなかった。



2回目は2008年8月。北京オリンピックが開かれていた時である。運良く開催時に中国に居るのだから何とか機会を見つけて行きたいと思っていた。8月8日(中国は本当に8という数字が好きである)から北京五輪がスタートした。出来ることなら張芸謀の演出による開会式をこの目で見たかったが望むべくもなく、テレビですさまじいまでの演出を堪能し、その後改めてDVDを購入した。オリ

ンピックも残りあと一週間で閉幕だなーと思っていた矢先、中国人の友人が「野球の試合のキップを持っているが、興味がないので200円で買わないか」と言って来た。

すぐさまOKし、旅行社に行き飛行機等の手配をした。そのチケットを見ると、試合は8月22日で日本対韓国の準決勝戦で願ってもないカードであった。一般的に中国人はあまり野球に興味がない国民性のようなのだ。

当日は晴天で熱中症になりそうな暑さだったが、北京五輪をこの目で見ているのだという感慨の方が上回っていた。試合は、日本チームは打たないわ、エラーを続出するわで全く韓国のワンサイドゲームとなり情けなくなった。球場は五棵松球場であった。この後オリンピックのメイン施設へ向かった。

北京五輪で有名なところといえば「鳥の巣」と呼ばれるスタジアムと「水立方」と呼ばれる室内水泳場で、この二つを見なければ北京五輪を見たとはいえないほどだが、しかし「鳥の巣」の周囲は竹矢来のようなフェンスが続き、あちこち歩いてようやく入場口らしいところに来たが、キップがなければ入れない。仕方なくフェンスの合間から写真をとるだけである。仕方なく近くにある「水立方」へ移動したが、ここも外観を写すだけであった。この二ヶ所はいつかまたゆっくり見に来ようと思い、市内に戻ることにした。

一日目は、炎天下の野球見物と、中に入らせてもらえなかった五輪施設を見て疲れてしまった。ガイドに夕食は涼しいレストランで北京ダックを食べたいと言うと「好的」と言って「全聚徳」の王府井店に案内してくれた。店のパンフレットを見ると「京師美饌、莫妙干鴨」「全聚徳始建于清同治三年(公元1864年)、距今已有一百四十余年的悠久历史」と書いてある。私流に翻訳すると「北京の美食はこの上ない美味のアヒルに尽きる」だが、意識しすぎであろうか。次は「この店は1864年創業で、今からすでに



池に映る五輪スタジアム・「鳥の巣」

140年余りの悠久の歴史を有している」とある。少しして料理が出て来たが食べきれないくらいたくさん出た。

日本では北京ダックの皮だけをパリパリ焼いたものをねぎといっしょにくるんでタレにつけて食べるが、本場のものはむしろ白身の部分を味わうようになっていた。本場で食べていると思うと余計美味しく感ずるもので、つらい一日目の最後がハッピーエンドで終わることができた。

翌日はまず天安門広場に行く。さすがに広い。そしてテレビのニュースでよく見る天安門は現実に目を見ると、迫力があり貫禄充分なたたずまいである。1949年10月にあの楼上で毛沢東が建国宣言をしたのかと思いつつ、壁面に掛かっている畳何枚分あるのか分からないほど大きな彼の肖像画をながめ、中国人は何でも大きいのが好きな国民なんだなという印象を持った。

この周辺は「近代」と「現代」を凝縮したところである。キップを買って天安門から中に入るとそこにはあの紫禁城が幾重にもいらかを重ね、この上なく歴史の重みを余すところなく伝えてくれる。まだたった100年余り前でしかない時代——今年には1911年の辛亥革命からちょうど100周年である——本当にこの場所で

西太后がとりまきの宦官と共に辣腕を振っていたのであろうか、信じられないが真実なのである。一般的に彼女は悪いイメージだが、あの時代背景の中で、しかも政権末期の、骨太の皇帝候補の男性が見当たらない中で国をとりしきった強さは驚嘆に値する。

故宮を通り抜け反対側の神武門から出ると、道路をへだてて景山公園である。公園内にある景山は紫禁城の外堀を掘ったときの土でつくられた山だそうだ。高さは43mとあまり高くないので上まで登ってみたが、山頂にある万春亭から見た眼下の故宮の風景は見事な一幅の絵である。これぞ中国一の眺めと言っては過言だろうか。いや、天壇公園とそこに鎮座する祈念殿も素晴らしいが、紫禁城の中で展開された明から清への500年にわたる権力闘争の歴史を重ね合わせてみるとやはり中国一ではないか。

清は明を打ち破り、1644年、3代目の順治帝の時にこの城に入城したが、以来260年以上少数民族の満州族が当時3億人はいたであろう漢民族を支配した事実は重い。

この景山公園は、また、亡ぼされた明の最後の崇禎帝がこの山のふもとにある木で縊死したことで有名である。その場所にはおそらく植えかえられたであろう木の下に説明板が設置されている。人生のはかなさを思い知らされる。

「近代」に関しては、この程度として「現代」について少し

ふれてみる。紫禁城は観光名所となったが、すぐ近くに清に替わる現代の権力の象徴とも言えるものがある。一つは人民大会堂である。ガイドブックには日本の国会議事堂に相当すると安易に書かれているが、全く異なるものである。この建物の中の一番大きい会場である万人礼堂は1万人の収容が可能らしいが、どこが日本の国会議事堂に相当するのか分からない。

議事堂は質疑応答を行うところであるが、大会堂は主席や総理が一方的な演説をする場に過ぎない。その場に出席できる人の選出経緯は全く異なる。人民大会堂は一部しか見学できず、中がどのようなになっているか分からないが外観で見る限り、国会議事堂の方が、デザイン、

荘厳さ、歴史などどれをとっても優れている。

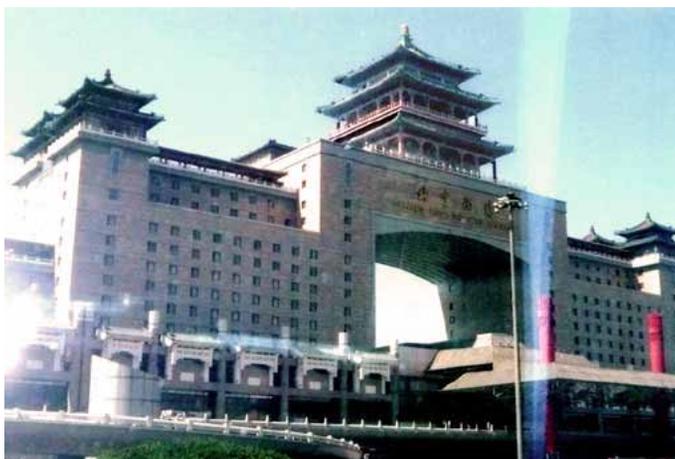
建築の話を敷衍すると、中国は建国時に歴史に残る十大建築物を北京市内に建てた。列举すると、

- ①人民大会堂
- ②中国革命歴史博物館
- ③中国革命軍事博物館
- ④全国農業展覽館
- ⑤北京駅
- ⑥北京工人体育館
- ⑦北京民族文化宮
- ⑧民族飯店
- ⑨釣魚台国賓館
- ⑩華僑大廈

である。半分くらいしか見ていないが、この中でも北京



北京駅



北京西駅

駅は駅舎のデザインがとても好きである。一度見たら忘れられない美しさだ。北京西駅も堂々として素晴らしい。中国の駅舎の多くは味わいがある。日本の駅は東京駅など一部を除き、殆どマッチ箱のようなデザインである。お寺の屋根のように美しかった長野駅も建てかえると、どこにでもあつまらない駅舎となった。中国の駅は、たとえ箱のような駅舎でも一番上は屋根瓦をふき、東洋的な美を感じさせる。

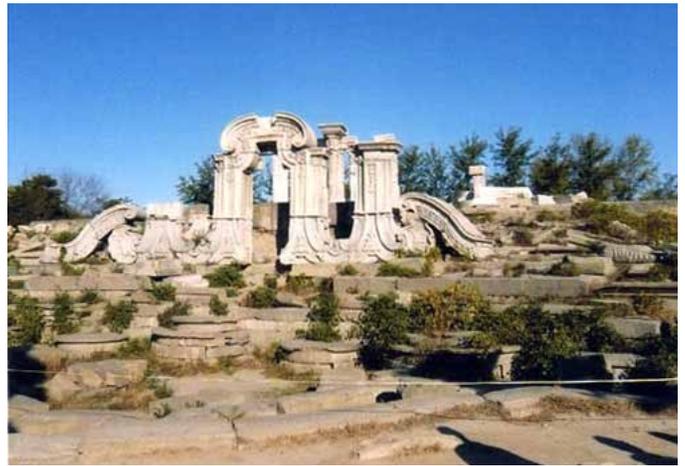
人民大会堂は、大きく立派であるが、せめて台湾の台北市にある圓山大飯店のような外観が中国的でよかったと、少し残念である。あるいは同じく台北市の故宮博物院のような建物でもよい。やはりあの場所に建てるのであれば紫禁城とのデザインの一体性を持たせるべきと思った。もう一つの象徴は中南海という場所である。中に入れないしコメントのしようがないが、要は共産党幹部の居住区、高級住宅街である。

景山公園を後にして、圓明園に向かった。途中清華大学のそばを通った。ここで胡錦濤が勉強したのだなと思った。成績はどうだったのだろうか？ 学生時代からあんな堅物の感じだったのだろうか？ と考えていると、「圓明園遺址公園」と書いてある入口に着いた。足を踏み入れて呆然となった。この有様はいったい何だろう。大理石の柱が散立はしているが、建物が当時どのような形であったのか全く見当すらつかない。勝手に想像するしかない。よくもこれだけ徹底的に破壊できたものだと感心するくらいだ。

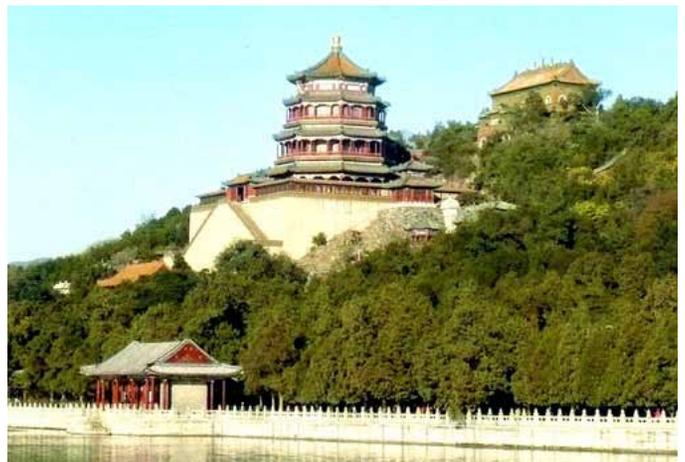
この公園とこの後訪れた頤和園は、1860年に英仏連合軍が中心となって徹底的に破壊し、さらに国宝級の「四庫全書」をはじめとする極めて貴重な書物を焼き払い、おまけにおびたしい財宝を本国に持ち帰った。昨年だったか、ヨーロッパのオークションでこの圓明園にあった動物のブロンズ像が売りに出され、中国が返還を求めたとの記事が出ていた。以前にも「牡丹江市」の中で書いたが、私が不思議に思うのは、アヘン戦争であれだけ蹂躪され、これだけの名園を破壊されても、中国では英国を悪く言う人にお目にかかったことがない。一体どうなのであろうか。

圓明園は、雍正帝がつくったものを乾隆帝が大幅に改修、西洋風の壮麗な宮殿だったらしい。中国一の乾隆帝の思想が表現されていたであろう宮殿を見ることができないのは誠に残念至極である。ここは頤和園と違ってユネスコの世界遺産となっていないが、英仏の残虐行為を後世に知らしむる遺産として登録すべきではないか。そう思いつつ次は頤和園に向った。

頤和園は1860年に英仏軍に破壊されたが、この公園は西太后により1891年に復元されている。本来なら軍備の充実に使うべき資金を復元費用に流用したため、日清戦争にも負けたと書いてある本もあるが、当時の両国の勢いからしても遅かれ早かれ破れたであろう。



英仏連合軍に破壊された圓明園の遺跡



頤和園のハイライト・仏香閣此。処から眺める昆明湖の眺望は絶景である

さてこの頤和園はいかにも素晴らしい。美しい杭州の西湖にならった昆明湖とその水面に倒影される雄大な仏香閣、湖畔に沿いそこに連なる長廊は「ようやく北京に来たのだ」という満足感を充たしてくれる。仏香閣は4重の八角形の屋根をかぶせ高さは40mもある。60mの人工の山である万寿山の頂上近くにあるのでその荘厳な美しさがひととき目立つ。乾隆帝が建てたようだが彼の豪放磊落な性格が表れていると感じた。

この頤和園には多くの建築物があり、とても紹介しきれないので前述の「長廊」だけ紹介したい。長さ728mで区画毎の天井等には美しい色彩の絵画がはめこまれた画廊でもある。約14000点あるが1つとして同じ絵はないそうだ。紅樓夢・西遊記・水滸伝・三国志などからの題材で描かれているが、世界一美しい廊下ではないか。いったい何人の絵師が動員されたのか知らないが、このこと1つとっても当時の権力者の力が想像できようというものだ。これらによりこの庭園は堂々と1998年にユネスコの世界遺産となった。到着した時は午後を少しまわっており、めぐるうちに夕暮がはじまってきたが、きれいな夕焼けにそまりつつある遠くの山々と昆明湖の色彩の変化は筆舌に尽くし難いものであった。

(続く)

相変らず真っ青な空の下、明るい日差しに包まれた鳥葬の丘で、見覚えのあるマニ石と不思議な縁を感じる再会を果たした私は、それが確かに旧知のマニ石である事を確かめるべく、丘の上から遠くに眺められていたゴンパ(寺)を目指して、昼下りの理塘の街を歩いていた。

丘を下ればゴンパは見えなくなってしまったが、適当にそちらと思われる方向目指して草原を横切り街外れの茶色い住宅街の路地を歩いていると、道の向うからやってきた少年達が私を指差して声をあげている。不思議に思って近づいてくる彼等の顔を覗き込んでみれば、やって来た三人の内の一人は昨日の鳥葬場で一緒にオバケの音に驚いて、私と手を繋いで逃げた少年なのだ。昨日は弟達なのか彼より幼い男の子二人と遊んでいたが、この日は同じ年頃と思われる少年達と一緒にだった。

昨日の彼は花を摘んでくれたり、私と手を繋いで歩いたり、自分の好きな動物を折り紙で折って欲しいとねだったり、石を削って作った自作のアクセサリーをプレゼントしてくれたりとちょっぴり甘えん坊を思わせる人懐こい優しい性格で可愛かったが、やはり同じ年頃の仲間の前では男のメンツがあるらしく、この日はちょっぴり小生意気でヨソヨソしい。どこの国の子供でもやる事はみんな同じなのが可笑しかった。

一緒にいる友達を私を見るとわざとズボンを下ろして見せたりする悪ガキだったが、そんな悪戯は私に何の効き目もない。彼のズボンの中身には取り合わず、少年達に「一緒にゴンパへ行きましょうよ」と誘うと、ヒマでブラブラしていただけらしい彼等はさして乗り気でも無さそうな様子ながらも私と一緒に歩き出した。

マニ石に続いて昨日の少年とも再会だ。どちらも狭い街での偶然といえばそれまでだが、改めて思い起こせばこの旅の間中で出会った出来事、知り合った友達や再会を果たせた垂丁の少年など、偶然と言い捨ててしまうには勿体無きような不思議な縁を感じさせる出来事がアチコチに転がっていたような気がした。おかげで一人旅だというのに、この旅の間中何処へ行っても、私は殆ど寂しい思いなどしていない。

きっと神様が引き合わせてくれているんだ……

チベット族の人々の世界にいと神様がとても身近に感じられ、なんの躊躇も無く自然にそんな気持ちが湧いてくる。

茶色く塗り固められたような土色の住宅街は、洗濯物が干されていたり子供が遊んでいたりと理塘住民の生活の様子が垣間見られる様で面白かった。道沿いのあちこちに

は近所の家の老人達が並んで座りこみ談笑している姿が見られたが、そうやって集まっている殆どの老人達の手には、赤ちゃんのおもちゃの様なハンドル式の小さなマニ車が握られている。

文字の読み書きができず長いお経を覚えて唱えるのが困難な者でも、このマニ車を一度まわせば、それで一回お経を唱えた事になり功德が得られるのだそうだ。談笑しながらマニ車をくるくる回している老人達の様子はなんだか楽しげでまるで遊んでいるように見えた。彼等の様子をみると、実際にそうなのかもしれないとも思っていた。

これまで旅して出会ってきた四川省深部のチベット・エリアの人々の姿や生活を通して、チベット族の人達にとっての信仰とは人が生きるために食事をしたり眠ったりする事と代わらないほど当たり前前に生活の一部になっているのが感じられた。そしてそれは私たちが日々の生活の中で食事や睡眠をささやかに楽しんでいるように、彼らが我が家を神様の絵や捧げ物で飾り上げ、日々深い信仰をささげる事自体が彼等の趣味や娯楽の一部ともなっているように思われるのだ。

偶然出会った子供達のお蔭で、ゴンパまでの道のりは迷うことも無く、住宅街の中を縫うような細い道を抜けると、数日前北京軍団の車に乗って通ったゴンパへの参道となる舗装された通りへ出た。丘の上に立つゴンパに向かってゆるやかな上り坂になっている道の途中に、私の目指していたマニ石屋があった。

この日もマニ石屋の店先には祈りの言葉が掘り込まれ美しく彩色されたマニ石が並べられていたが、あの日の私が店先でスケッチしたマニ石は当然のように姿を消しており、それを確認した私は大変満足すると、そのまま坂を登ってゴンパを目指した。

元々神社仏閣などを訪れるのは嫌いでは無い方だが、宗教への信仰心という意味で日本にいる間の私は、ほぼ無神論者といっていい。神社やお寺に行き頭を下げるのは信仰心からというよりは作法や習慣といった感覚で、お正月や旅先で神社仏閣を訪れる時以外に神様の事を想う機会などそうは無い筈だったのだが、そんな私がこの地を旅している間は何故かいつも神様の存在が身近に感じられる気がして、いつしか彼等のチベット仏教には強く惹きつけられていた。

恐らく参拝している者の多くが私と同程度の心持ちであろうと推察される日本のお寺は、きれいに手入れされ整えられて美しくもあるが、本来の存在意味は既に薄れてどこ

か余所余所しい美術品の様な存在に取って代わっているような気がするのだが、このチベット・エリアの随所に点在するお寺は、現在でも日々土地の人々の心の拠り所として強く機能している血の通った場所だ。

まるで極彩色に彩られた曼荼羅のように色鮮やかで、いつも線香のけむりとロウソクの匂いが立ち込めている薄暗いチベット寺院の中は、その微かな明かりに照らされぼんやり浮かび上がる金欄緞子の御簾の後ろに、まるで地獄絵図の様な姿の無数の神々の姿がうごめいている。慈悲と残虐、性と生死がない交ぜになり下界に生きる人間の欲望や煩悩そのままに生々しく描かれるチベットの神々には、不浄とは無縁の世界に取り澄ましている日本の仏像仏画からは感じ得ない何か独特な魅力が感じられて惹きつけられ、私は思わず目を奪われてしまう。そして、そんな異空間の中に身を置いて本尊の慈愛に満ちた眼差しにじっとみおろされていると、日本のお寺では感じた事のない深い安らぎに包まれて思わず泣き出したいような衝動にかられ、自然に頭を垂れいつまでもそこでそうしていたい気持ちになってしまうのだ。

今回の旅で2回目となる理塘ゴンパで気の済むまで過ごし、ゆっくりとこれまでの旅の安全と幸運に感謝を捧げると、これで私が理塘で望んだ事はすべて叶えられ、この土地に心残りなく明日の朝旅立っていけるすがすがしさのような物が感じられた。ゴンパまで一緒に付き合ってくれた子供達とは住宅街まで戻ったところで、昨日と同様アイスクリームをご馳走してお別れした。

宿に戻ると昨日知り合った日本人の学生と大阪のおじさんにも声をかけ、すでに理塘生活での日課となっている温泉に行った。この日は3人なのでタクシー代も安上がりだ。理塘での生活はこの温泉のおかげでとても充実していた気がした。やはり日本人は風呂好きなのだ。自由に入浴する事ができない土地で長く旅していると、一日の終わりに不便なシャワーでそそくさと汗を流すのとゆっくりお風呂につかるのでは、やることは同じでも意味合いが全く違って来る。学生とおじさんも身体から湯気をあげ、久しぶりの入浴を喜んでいた。

理塘の街から郊外の温泉まで毎日通った、日暮れ時の草原の中を真っ直ぐに走る車窓の風景はいつ見ても美しいがどこか切ない。この風景を見るのもこの日が最後だと思うと、死ぬまでこの草原と共に暮らしていく理塘の住民達が少し羨ましく感じられた。車の窓から吹き込む風が爽やかだった。

既に日の暮れた理塘の街に戻った私たちは、昨日の続きのように三人で食事を取るため外に出た。理塘での最後の

晚餐は私の希望で串焼き屋の屋台だ。これまで訪れてきた四川省の何処の土地でも見かけていた、中国語で「カオ・チュアン」と呼ばれる串焼きの屋台はここ理塘にも例外なく存在しており、薄暗くなる頃になると何処からともなくやって来て店を開くのだ。

私たちの宿の前をはしる目抜き通りにそって小さな広場になっている場所には、夜になるといくつもの串焼き屋台が競うように並んで店を広げていた。単に串に刺した食材を焼き、香辛料を振りかけて食べるだけの串焼きでも、店によって味に差があるのか他に理由があるのか、賑わっている店もあれば、ガランとしている店もある。私たちはのんびりゆっくりしたかったのであえて入っている屋台は避け、高校生位の少女が一人でやっていた客のいない屋台に座った。

他所の土地を旅して、他国の人と交流する事は楽しいが、やはり自由に言葉の通じる同国人と同じ感性を共有しての会話はまた別の楽しさだ。互いにその日を理塘でどのように過ごしたかなどを報告し合って楽しいひと時を過ごしたが、やはり私は鳥葬の事は告げずにいた。

しばらくその場で談笑し夜もふけて来た頃、学生とおじさんは「そろそろ・・・」と宿に戻っていったが、私は理塘での最後の夜が惜しくてもう少しその場に居たかった。彼らとはその場で別れ、一人屋台に残ってそれまでの出来事を一つひとつ思い起こしていると、こうしてまた一日が終わる事で日一日と旅の終わりが迫っているのを肌で感じて、少しセンチな気持ちになりかけたが、屋台の少女とポツリポツリと話しているうちに気持ちが和んできた。

聞けば少女は18歳で、チベット族ではなく漢民族なのだそうだ。他所の土地から家族でこちらに働きにきているのだという。不思議な気がした。彼女がどこの土地からやってきたのか、その地名は既に忘れてしまったが、確かその土地は中国の中のそう小さくはない筈の都市の名前だったのだ。漢民族である彼女の家族が、なぜわざわざチベット人の土地である大草原の中の小さな田舎街に働くことを目的でやって来ているのか・・・人には人の他人には計り知れない様々な事情があるのだろう。まだ年若い少女が深夜の街に一人きりで屋台番をまかされている事も私の目には不自然に思えたが、彼女はそれを特に不満に思っている様子もなく「うちは宿屋もやっているのよ。」と屋台を出している後ろの建物を指差して見せた。尋ねてみると私の泊まっている宿よりも値段が安い。

「次に理塘に来た時はあなたのところに泊まるわ。」私は少女にいつ果たす事ができるのか定かではない口約束をしながら串焼き肉を口に入れ、心地良い夜風に吹かれながら理塘の最後の夜は更けていった。

(続く)

ドキュメンタリー映画「沈黙の春を生きて」を見て思う

(監督：坂田雅子/日本/87分)

公式サイト：http://www.cine.co.jp/chinmoku_haru/

東日本大震災による「福島原子力発電所」事故の影響は収束に向かっている気配が一向に見えない。

被爆国・日本でありながら、原子力の平和利用の美名と共に喧伝されてきた原発の安全神話を深く追求することなくふんだんに電力を使用していた私たちの日常も反省したいと思う。

東海村原発の臨界事故を初め、過去には国内だけでも大小の事故が何件も起きている。今後も原発が存在する限り、原発事故が絶対に起らないという保証はあり得ない。原発事故はもう事故の大小の問題ではないと思う。原発の是非の議論する前に、今、そして今後の、地球上で生きる全てのもの達に対する責任を考えたい。

話は変わるが、9月24日(土)から岩波ホールで上映の「沈黙の春を生きて」は、50年前、レイチェルカールソンが彼女の著書「沈黙の春」で告発した、その化学薬品を安易に使用する恐ろしさとの深さを映像で語る。

放射能とある種の化学薬品は共に人間が作り出し制御できなくなったものと言われている。1960年代、泥沼化したベトナム戦争で、アメリカ軍がジャングルに潜む南ベトナム解放軍に手を焼き、ジャングルに大量の枯葉剤を散布した。当時、枯葉剤は人体に無害とされていたが、その後ベトナム人の結合双生児などでその枯葉剤には猛毒のダイオキシンが含まれ奇形児誘発を引き起こしている事実が繰り返しマスコミによって報道されることになった。

2011年8月13日付の朝日新聞は、ベトナムでの癌や障害児出産の被害は2世代、3世代にわたっており、枯葉剤被害者支援団体によると今も約300万人のベトナム人に何らかの症状があり、散布開始から50年を経て、米国の援助のもとに枯葉剤の汚染除去作業が今年やっと始まったことを告げている。

映画は、その枯葉剤による奇形児・障害児誘発という薬害の事実を伝え、その被害が、被曝したベトナム

人だけではなく、実は散布に従事したアメリカ人帰還兵とその家族にも及び今も多くの人が重い病気や障害で苦しんでいる事実を伝えると共に、その一人である女性・ヘザー・A・モリス・パウザーさんが、アメリカ人枯葉剤被害者として初めてベトナムを訪れ同じ枯葉剤の被害者と交流する姿を撮っている。

ヘザーさんはベトナム帰還兵を父に、1972年に生まれ、彼女自身は右の膝から下と左足のつま先、両手の指が何本か欠損して生まれた。40歳を超える彼女がこれまでどれほどの精神的苦痛を経てきたか想像に余りあるが、現在は心理カウンセラーと美術教師の資格を持ちアメリカ・ベトナム双方の枯葉剤の実態を多くの人に知ってもらおうべく活動を続けているとのこと、その彼女が現地の被害者と抱き合い励まし合う姿は眩しく尊く、又枯葉剤散布によって傷つき苦闘の生涯を必死に生きる子供たちの姿に、誰しも文明の利便さを不用意に使用した罪の深さを一層強く感じるに違いない。

私たちは自分たちに続く世代に彼らが受けたような宿命を与えていい筈はあり得ない。原発問題を含め、文明とは人間にとってどういうものであるべきか、2011年を期して皆で真剣に考えて見る時にきていると思う。(田井)

- 上映案内: 岩波ホール(漸次名古屋、長野でも予定)
- 上映期間: 2011年9月24日(土)～10月21日(金)
- 上映時間割:

月～土、及び10月10日

11:30、14:00、16:30^{※1}、18:50

日曜: 11:30、14:00、(16:30)^{※2}

※1…土曜日の18:50は日英字幕併記版の上映

※2…日曜日の16:30上映回は、同監督作品

「花はどこへいった」の上映になります。

▲当日料金: 一般¥1,800 / 大学生・シニア¥1,500

▲前売料金: 一般¥1,500(税込)

- 岩波ホール上映映画ホームページ

http://www.iwanami-hall.com/contents/next_9/about.html

昨年の夏頃だったか、世界遺産「平遥」を紹介したテレビ番組を見た年上の友人からメールが来た。「城壁を歩きたい、泊まるなら四合院のホテル。中国語ができるあなたと平遥に行きたい」と。

平遥にはかねがね行きたいと思っていたので、即、「行きましょう」の返事をし、旅計画に取りかかった。彼女が期待するほど中国語ができるわけではないが、拙い中国語を操って中国を旅することは大好きである。9月からお世話になっている中国語の先生が山西省太原出身だとわかり、先生にあれこれ尋ねた。夏は酷暑、冬は厳寒の山西省、おまけに春先は風が強いと黄砂が激しく降ると聞く。では、旅行の適期はと尋ねると「それは9月でしょう」という答え。しかし、9月までは待っていら

ず5月末から6月にかけて旅することにした。

今回、四人で旅したが、計画は全て任せるわといわれ、私は度も旅を楽しんだ。先ず、計画の段階。旅行書やネットで情報を仕入れ、メールや電話でホテルや交通機関の手配をする。そして旅行中。同行者三人は人生経験豊か好奇心旺盛で、何の不安も感じることなく楽しく旅することができた。帰国後は初めてフォトブックづくりに挑戦し、旅の思い出をまとめた。同行者からは「今回のような旅をして中国に興味湧いてきた」「ツアーでは味わえない濃い旅ができた」と嬉しいメールが届く。

中国旅行を計画される際の参考になればと旅程をまとめてみた。お役にたてば幸いである。

●行程表

月 日	行 程	宿 泊 (評価:○まあまあ◎とても良い)
5/31(火)晴 北京 29度	羽田発(NH1255)9:25 →北京着 12:20 北京西駅発(D2017)18:05発→(新幹線)→太原着21:34(所要3時間29分508km) <ul style="list-style-type: none"> ■ 空港には定時より15分早く着陸。北京の友人と動車チケットのデリハリで中国婦女旅行社ガイドが空港でお出迎え。 ■ 空港で両替、いくら以上か忘れたが両替金額が多ければ手数料は不要と聞き4人分を一度に両替する。 ■ 北京空港からのリムジンバスは1時間で北京西駅の南側に到着。 ■ 動車(中国の新幹線)は時間通り発車。時間通り到着。 ■ 太原駅で翌日の平遥行き列車チケットを買おうとしたがすでに売り切れ。夜10時近くだというのに長い行列。 	太原華苑賓館 太原迎澤街9号 0351-8828555 太原駅徒歩5分 標準間3室(含朝食) 248元/1室 (ネット予約) 泊まるだけだから安く て駅に近く、朝食付き。 評価は○
6/1(水)晴 平遥 30度 山西省に いる間、 毎夜洗濯。 乾燥して いるので 一晩で乾 く。着替 えは少な く済む。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホテル前から市内バスに乗り建南バスターミナルへ。建南バスターミナル終点に乗らなかったため、付近で下車され、道がわからなかった。親切な中国人がわざわざ案内してくれたので行くことができた。バスターミナルで平遥行きのバスチケットを購入しバスに乗る。中型バスで満席。 ■ 出発して約2時間、車掌に起こされ平遥古城の近くに到着したことを知る。下車した場所は何もない。オート力車の客引きが待っていたので、言い値(30元)でそれに乗る。ホテルまで約15分。城壁が見えるビューポイントで力車を止め、写真撮影のサービスをしてくれた。 ■ 平遥古城内観光3日間有効150元の共通入場券(パスポートを見せると70才以上は無料、60才以上は半額) ■ 3日の車チャーター(観光)と4日の太原発大同行きバスチケット、太原バスターミナルまでの車手配をホテルに依頼する。 	平遥/ 一得客栈 http://www.yide-hotel.com/index.asp 0354-5685988 豪華間1室450元/1室 単人間2室290元/1室 (メール予約) 朝食は付かない、従業員は親切、280年前の古建築で雰囲気は最高。部屋は清潔で美しい。車やチケットの手配ができる。評価は◎
6/2(木)晴 平遥 32度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 城壁観光ホテル発8時半、城壁に上り2時間半かけて1周する。日差しを遮るものは何もないので暑いせいか、私たち4人以外誰も歩いている人はいない。上から城内が見られるのでお勧め。 ■ 19:30~20:30文廟の隣にある大戲院で伝統芸能ショーを鑑賞。お茶と茶菓子、スイカ付きで一人100元。午後3時過ぎに予約済み。建物の内部がすばらしい。 	平遥・同上
6/3(金)晴 平遥 32度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 8:00 11人乗り包車(ライトバン)でホテル前出発。8:30 双林寺着見学1時間45分 ■ 9:45 双林寺発。10:30 王家大院着 見学2時間半その後、王家大院の近くにあるレストランで昼食 ■ 13:45 王家大院発→15:00ホテル着(チャーター代320元) 	平遥・同上

月 日	行 程	宿 泊 (評価:○まあまあ◎とても良い)
6/4(土)晴 大同 30度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 8:00 チャーターした車(なんとBMW)でホテルを出発。途中大渋滞にあい迂回したため太原着が30分ほど遅れる。 ■ 10:30 太原長距離バスターミナル着。バスチケットを受け取り乗車。最後まで運転手が親切に案内してくれた。(チャーター代400円) ■ 11:00 太原発、一列3席の豪華バス(120円)。途中5分のトイレ休憩を挟み順調に運行。時間通りに大同に着く。 ■ 14:30 大同新南公路バスターミナル着、タクシーでホテルへ。 ■ ホテルで北京西駅行きの寝台車チケットの手配を依頼 ■ 大同旧市街見学 	大同 / 花園大飯店 http://www.datonggardenhotel.com/Public/webcon/Default.aspx 大南街59号 0352-5868666 大同駅から5キロ(城内)高級標準間3室(含朝食)330元/1室(ネット予約)設備がよい、部屋が快適、サービスがよい。従業員の感じがよい、車やチケットの手配ができる。朝食が豪華。評価◎
6/5(日) 大同 曇 午後2時過ぎ、雷を伴うかなりのわか雨	<ul style="list-style-type: none"> ■ 8:50 ホテル前からタクシーで出発 ■ 9:20 雲崗石窟到着。12:00まで見学 ■ 中国三大石窟の一つというが、余りの見事さに圧倒されっぱなし。敦煌の石窟も是非みたいと思った。日本語ガイドを頼めばよかったかもしれない。 ■ 12:30 石窟発(タクシー) ■ 昼食を食べ始めたころ激しい雷雨に見舞われる。道路はあつという間に川になるほどだった。雨が止むまでレストランで待つ。 ■ 夕方、ホテル近くのスーパーで山西名物の黒酢や中国食品を購入。 	大同・同上
6/6(月) 大同 小雨 北京晴30度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 8:33 大同駅始発(K616)〈所要6時間一等寝台車を予約〉→14:33 北京西駅着 ■ 山西省はほとんど雨が降らないと聞いていたが、朝からこぬか雨。持参の傘が役に立った。・同行者の一人が大同駅手荷物検査台に電子辞書が入ったリュックを忘れてきた。気がついたのが発車5分前。列車長ほか駅員の連携で、北京西駅で受け取ることができた。親身な対応と行き届いたサービスに感動。後日、電話と手紙で感謝の意を伝える。 	北京/ 錦江之星北京前門店 http://www.jinjianginns.com/ 西打磨廠街224号 010-67052533 地下鉄2号線前門駅徒歩5分 標準房A1室289元 単人房A2室229元 各1室料金(電話予約) 前門近くで便利。ベッドは大きい。他は日本の古いビジネスホテル並み。宿泊のみなので安い。評価○
6/7(火) 北京 晴	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北京発(NH956)8:30→13:05成田着・ホテル5時半発。前日、ホテルにタクシーを依頼。 ■ 予定より15分早く成田着。原発事故の影響か、成田は閑古鳥が鳴いていた。あつという間に出口へ。無事帰宅。 	

旅の決算 1元13円で計算(概算)

航空チケット(北京往復ANA) …約70,000円
宿泊費(七泊)(高橋費用) ……………19,000円
交通費 ……………12,000円
見学代 ……………5,800円
食費 ……………5,800円
合計約……………112,600円

- ★交通費、見学代、食費は4名で頭割りの経費
- ★見学先の入場料は王家大院以外、70才以上は無料、60才以上は半額。パスポート提示。

●中国山西省 PR 日本センター

山西省の観光情報満載。動画も見応えあり。

<http://www.lets-go-shanxi.com/index.php>

●北京・中国婦女旅行社 <http://www.cwtn.com.cn/jp/index.jsp> (日本語有り)

☎ 010-85169953 E-mail: jplj@cwts.com.cn

- * 動車(新幹線)チケットは10日前発売で当日購入は困難と聞いたので旅行社に購入を依頼した。日本語でメールのやり取りを何回もしたが、いつも誠実で丁寧な答えが返ってきた。
- * デリバリーサービス(200元)を使い、北京空港までチケットを届けて貰った。手配を頼むとキャンセルはできない。

- ネットでホテルの予約(中国語のサイト) 中国の携帯番号を要求するサイトがほとんどだが、「酒店预订中心(広州市)」のサイト <http://hotels.cthy.com/> は日本の携帯番号の入力でも予約ができた。折り返し、メールに返事が来る。情報が多彩で使い勝手がよかった。

【わんりいの催し】 **第4回 中国語で読む・漢詩の会**

- 日本でよく知られている漢詩を、中国語の音とリズムで楽しもう!
 - 正しい発音で読めるように練習しよう!
 - 四回目の漢詩の会は、桜美林大学孔子学院講師・植田渥雄先生と共に李白の詩・4編を時代を追って読んでみます。
- ✿ 繰り返し読んで練習します。中国語を学んでいらっしやらない方も、是非ご参加ください。



- ▶ 場所：まちだ中央公民館・学習室3・4 (原町田6-8-1・町田センタービル・6F)
- ▶ 期日：2011年10月2日(日)
- ▶ 時間：10:00～11:30
- ▶ 会費：1500円 ▶ 定員：20名
- * 録音機をお持ちの方はご持参下さい。
- ◆ お申込み&問合せ(有為楠)：☎050-1531-8622
E-mail:ukiuki65jpp@yahoo.co.jp

【植田渥雄先生・略歴】

1937年、岡山市生まれ。東京大学文学部卒業。
職歴：元桜美林大学教授

元NHK ラジオ中国語講座担当講師
現桜美林大学孔子学院講師
現桜美林大学名誉教授

京劇研究会第18回公演「東京的京劇」

日本京劇研究会・中国国家京劇院合同公演

【演目】

- 中国国家京劇院：「大鬧天宮」より「水簾洞・御馬監」
* 出演：石山雄太、呂昆山 他
 - 日本京劇研究会：「秋江」「拾玉鐲」「天女散花」他
* 出演：塩沢伴子、富田正久、袁英明(特別友情出演)、張冠玉(「劇団TAKARA」友情出演)
- ▲9月21日(水)→9月24日(日) ▶ 14:00、19:00(22日は無し)
▲9月25日(日) ▶ 13:00、18:00
- 会場：俳優座劇場 東京都港区六本木4-9-2
 - 入場料：スーパーモンキー席8,500円(東日本大震災被災支援金含む)
モンキー席6,500円(全席指定)
 - 問合せ：京劇研究会 TEL:0904179-3318
- 公演情報：<http://www.enjoytokyo.jp/stageplay/event/477820/>

町田国際交流センター(担当：国際理解部会)の催し
講演会「**オバマ政権と最近のアメリカ事情**」

アメリカの今を皆さんと一緒に考えていきましょう

- 2011年9月17日(土) 14:00～16:00
 - 会場：町田市民フォーラム 3階ホール
 - 定員：180名(応募多数の場合は抽選)
 - 参加費：無料
 - 申込期限：2011年9月10日(土) 必着
 - 講師：五十嵐武士氏
1946年生まれ、東京大学法学部卒業、東京大学教授、日本比較政治学会会長、アメリカ学会会長等を歴任。現在、桜美林大学大学院国際学研究科教授、東京大学名誉教授。
 - 申込：①住所、②氏名、③参加人数、④電話番号、を書いてFAXで。FAX番号：042-722-5330
- ※ 受付け確認の通知なし。直接会場へ。

平成23年度文化庁芸術祭主催公演
アジア オーケストラ ウィーク 2011

♪ わかちあうシンフォニー ♪
<http://www.orchestra.or.jp/aow2011/>

- 会場：東京オペラシティコンサートホール
- ▲10月2日(日)午後2時開演
大邱市立交響楽団(韓国)
- ▲10月3日(月)午後7時開演
クライストチャーチ交響楽団(ニュージーランド)
- ▲10月4日(火)午後7時開演
仙台フィルハーモニー管弦楽団
- 東京公演チケット
 - 日本オーケストラ連盟 ☎03-5610-7275
 - 各プレイガイド
 S券3,000円、A券2,000円、B券1,000円
S券ペア(2枚)5,000円
東京3公演セット券：Sセット7,000円、Aセット5,000円
- お問合せ(社)日本オーケストラ連盟：☎03-5610-7275

スリランカフェスティバル2011

スリランカ文化、遺産、自然の美しさの体験!!

スリランカ行き往復航空券(4枚)が当たるかも…

スリランカ特産品や料理の販売)
/スリランカの伝統舞踊マジック
ショー/占い等々盛りだくさん



- 2011年9月10日(土)・9月11日(日)、10:00～19:00
- 代々木公園(イベント広場)
千代田線代々木公園下車徒歩8分
JR原宿駅または千代田線明治神宮前下車徒歩7分
- 入場無料、雨天決行
- 主催：在日スリランカ大使館
☎03-3440-6911/03-3440-6912
情報は、<http://tigerfestival.blogspot.com/2011/08/festival-brasil-2011.html>

【9月の定例会と10月号の発送日】

- ◆ 定例会：9月9日(金) 13:30～(田井宅)
- ◆ 10月号のおたより発送日：8月30日(火) 13:30～